



読書界9月号

テーマ 「2回目に読んだ時に面白い本」

『君の臍臓をたべたい』 住野よる 双葉文庫

ある日、病院を訪れていた「僕」は、「共病文庫」と書かれた一冊の文庫本を見つける。それはクラスメイトである山内桜良が綴っていた日記帳だった。そこで「僕」は彼女の余命が残り幾許もないということを知る。正反対の「僕」と「彼女」が織りなす青春物語。予想を裏切る結末と、同時に分かるタイトルの意味に、読後、きっと涙するはずです。最後に明かされる「共病文庫」の内容を知ってから、もう一度読み返すと、より感動できる箇所がたくさん見つかります。命の大切さを教えてくれて、一日一日を大切に生きよう、と前向きになれる本です。是非一読ください。

1年

『これが私の優しさです 谷川俊太郎詩集』 谷川俊太郎 集英社文庫

この本は、題名の通り「スイミー」の和訳をした人として覚えている人もいるであろう谷川俊太郎さんの詩集です。一つ一つの詩で伝えようとしていることや意味が1度読んだだけではほとんど分からないような、かなり独特な詩が多いですが、何度も繰り返し読んでみるたびに少しずつ伝えようとしていることや、意味が分かるようになっていく感覚を楽しむ、という楽しみ方もできることがほかの本にはない特徴です。題名に「優しさ」と書いてある通り、優しさや愛についての詩が多いです。しかし、素直に「優しさ」や「愛」と書いてあることはほとんどなく、詩に隠されているので、ぜひ実際にこれらを見つけてみてください。

1年

『Re：ゼロから始める異世界生活』 長月達平 角川書店

7月からアニメ第二期も始まった大人気シリーズ。このシリーズはとにかく謎が多い。現在23巻まで出ているが、主人公がなぜ異世界に来てしまったのか、なぜ死んだときにしか発動しない「死に戻り」の能力が与えられたのか、序盤にあるキャラクターが発した一言はどういう意味だったのかなど、分からないことばかりだ。1回目は推理しながら、2回目はストーリーを楽しみながら読むと、また違った面白さを感じられる。

2年

『キケン』 有川浩 新潮文庫

現代兵器の申し子、ユナ・ボマー上野直哉率いる成南電気工科大学機械制御研究部、略して「機研」。彼らのその才能と技術をもってして積み上げられてきた（超絶危険な）所業は数えきれない（本人たちに悪気はない）。巻き込まれる人々。最初は苦勞するが徐々に感化されていく新入生。対立する生徒指導。学校祭、ロボット相撲大会を経て、そして、今。無意味上等！ おバカ上等！ 俺たちに不可能なことなどない！ これは、その伝説的黄金時代を描いた物語である。疾走感あふれる非日常。さあ、靴紐の準備はいいか。

2年

『ご冗談でしょう、ファインマンさん』 R.P. ファインマン 岩波現代文庫

この本はノーベル物理学賞を受賞した物理学者、R.P. ファインマンの逸話集である。ここには好奇心旺盛で天才なファインマンの滑稽な逸話が書かれている。天才物理学者の滑稽な話として楽しむのもよいが、この本には彼がどう考えているかが書いてあり、理学をやる上でかなり参考になるのではないかと。この本を一度読んでから理学をやっている時に行き詰ったらもう一度この本を読みたくなるだろう。

3年